

## 採胚時における授乳の有無が黒毛和種繁殖牛の胚回収成績に及ぼす影響

畜産試験場

高橋 弥生、木下 政健、稲谷 憲一、岡 幸宏

県内畜産農家繋養の黒毛和種繁殖牛を供胚牛として活用する際の選定条件を明らかにするため、平成18年7月～平成19年12月にかけて牛受精卵移植技術支援事業にて採胚を行った黒毛和種繁殖牛（延べ15頭）を調査対象牛とし、採胚時における授乳の有無が胚回収成績に及ぼす影響について調査した。その結果、離乳後に採胚を施した牛（ $n=9$ ）の回収胚数、正常胚数及びA～A'ランク胚数は、 $8.3 \pm 4.1$ 個、 $7.0 \pm 4.3$ 個及び $5.8 \pm 3.8$ 個であったのに対し、授乳中に採胚を施した牛（ $n=6$ ）は、各々 $14.3 \pm 10.7$ 個、 $4.8 \pm 2.6$ 個及び $3.3 \pm 2.1$ 個であった。また、授乳中に採胚を施した牛で、子宮修復が不完全なものが散見され、それらからは、多数の未受精卵が回収された。以上のことから、農家繋養牛を供胚牛として活用する際には、離乳後の牛を対象とすることにより、安定的な採胚成績が期待できるものと考えられた。

畜種：牛、分類：畜産技術、キーワード：採胚成績